

CASE
43株式会社
三光システム『デスクネッツNEO』
ノーコードツール一体型グループウェア

改善分野▼ワークフロー、申請手続きなど

導入の決め手▼価格、オンプレミス版

価格▼パッケージ版基本ライセンス(50ユーザー) 25万円

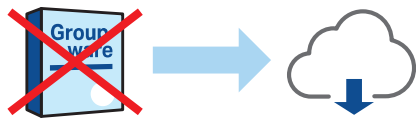
+ 基本サポート(2年目以降) 4万5千円/年

+ APP suite基本ライセンス(50ユーザー)

+ APP suite年間サポート(2年目以降)

20万円
3万6千円/年

Before

依頼書と申請書と…
作るのに手間がかかるし、
決裁に間に合うかなあ…作業依頼書や出張申請などは紙で対応、
決裁までに時間がかかっていたメールしたけれど
ちゃんと見てくれるか不安…社内回覧や通達をメールで
送信するも、確認しているかどうかわからない今まで使っていたグループウェアの
オンプレ版が廃止となり、クラウド版のみに

\\ 解決したい!! //

課題
1

稟議や申請のワークフローをスピーディに

紙やエクセルを使用している作業依頼書や出張申請などの書類を、素早く決裁できるようなワークフローを構築したい。

課題
2

社内の回覧や通達を確実に伝達

メールで送信している社内回覧や通達を、送り先全員が確実に見ているかどうか確認できるようにしたい。

課題
3

オンプレ版のあるサービスへの切り替え

今まで使っていたサービスがクラウド版のみの対応に。業務内容の機密性を考えると、当社のデータをクラウドで管理するのは不安。

1984年の創業以来、日本の社会基盤である年金事業と電力事業に特化した業務用システムの開発を手掛ける株式会社三光システム。約50年前、創業者の竹内宏器氏が手作業だった厚生年金基金の実務をシステム化したことを皮切りに、1984年の創業から丸40年にわたり、お客さまに寄り添ったシステムサービスを展開してきました。現在は全国120の企業・団体と取引しています。

同社が『デスクネッツNEO』を導入したのは2024年4月。それまで取り入れていたグループウェアで使用していたのは、社員の予定を把握するためのスケジュール機能のみで、出張申請や稟議などの決裁は紙やエクセルで対応していました。「さまざまな機能があつたと思いますが、使いこなせていませんでした」と代表取締役の白石光一さん。そんな中、前システムのオンプレ版が廃止となり、クラウド版に一本化されることに、「当社の業務内容は機密性が高く、クラウド版はセキュリティ上問題がある。さらにコスト面では自社でサーバーのメンテナンスもできるので、ランニングコストを考えるとオンプレ版を使い続けたい」と、オンプレ版のあるデスクネッツNEOに切り替えました。



株式会社三光システム

〒761-8024 高松市鬼無町藤井105-1

TEL:087-882-4643

HP: <https://sankou-sys.co.jp/>

After

ノーコードツール型グループウェア

デスクネットNEO

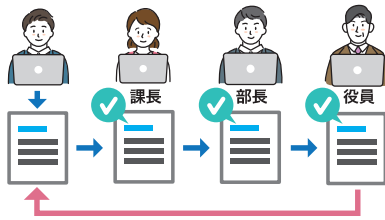
できる
こと

- ▶ 社員のスケジュールが一目でわかるカレンダー機能
- ▶ 申請から承認までのワークフローのデータ化
- ▶ ノーコードで業務アプリを簡単に作成

経営者 comment

機密情報を取り扱う当社の業務内容を考えると、自社サーバーでデータを管理できるグループウェアが必須条件。デスクネットNEOはカスタマイズも簡単で使いやすいです。

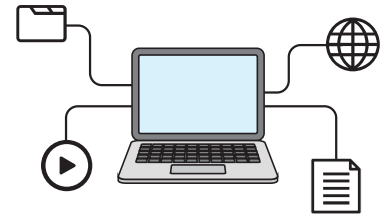
スケジュール、 ワークフローの視覚化



回覧、通達などの 会社情報を全員が共有



既存のデータや フォーマットとの連携が可能



効果を実感!!

経営者 comment

デスクネットNEOは、とても見やすく操作も簡単。ワークフローや申請書類などもノーコードで作成できるので、自社に合わせてカスタマイズも可能です。

効果1 申請から決裁までの流れが一目でわかり、 作業効率がアップ

見積書や作業指示書、出張申請などの承認状況が一目で確認。社外や移動中でも承認できるので申請業務がスピーディに。

効果2 社内回覧、通達などの一斉配信で、 情報共有がスムーズに

「既読」機能でメッセージが読まれたことを確認。コメントやファイルのやりとりもでき社内のコミュニケーション力が向上。

効果3 自社に合わせた業務アプリを作成、 カスタマイズが可能

業務内容に合わせたフォーマットやアプリを簡単に作成。より使いやすくするためのカスタマイズも可能。



代表取締役社長の白石光一さん



申請書画面



申請書画面

社員のスケジュール管理をはじめ、ワークフロー、回覧や通達などでデスクネットNEOを活用。これまで紙やエクセルで作成、共有していた作業依頼書をデスクネットNEOに移行したことで、承認状況の進捗が一目で分かるようになり、作業進行がスピーディになりました。操作も簡単で、社員からも使いやすいと好評です。回覧や通達も一斉配信により、メールの時のような送受信の手間が省けるだけでなく、作成者と閲覧者との間でコメントのやりとりができ、社内のコミュニケーションが活発になりました。

「今後の課題は社内データの集約とシステムの連携」と話す白石社長。顧客情報や勤怠管理、SEの作業見積、個別原価計算など、現在はエクセルで管理・作成しているデータを、過去のデータも含めて管理できる共通のデータベースを作成し、デスクネットNEOや経理関係のシステムと連携できる仕組みを構築していきたいと考えています。